

1. 日時 令和4年7月20日(水) 15:00-17:00

2. 場所 大阪府立桃谷高等学校 視聴覚教室

3. 出席者(委員)

梅田和子委員(会長)、大西啓嗣委員(副会長)、篠崎静夫委員、長谷かおる委員、中谷朋世委員、
(筋原彰博委員は欠席)

4. 主な内容

- ・各課程による令和4年度学校経営計画の説明
- ・令和5年度 教科用図書採択について

5. 説明・協議

[定時制の課程 I・II 部]

説明

○現状 本年度生徒数91名

○進路実績 昨年度卒業生103名 進学約50% 就職約25% その他約25%(家庭やフリーター)

○中期的目標 1年半後の閉部を見据えた教育活動の一層の充実

- ・総括担任の設置・・・卒業に向けての指導(家庭との連携、担任連絡)、
- ・担任連絡会の増加・・・教員全体で一人ひとりの生徒の状況を把握
- ・卒業ができない生徒の転学指導

教職員研修の充実

- ・毎日の業務を通して教員同士で学びあう→担任団5/7が初任 2/7がミドルリーダー
- ・オンデマンド型研修(人権侵害防止研修)

「学びのシステム」及び進路指導体制の充実

- ・進路説明会・・・年間3回、第一回参加者数43名 肯定率93%
第二回参加者数33名 肯定率100%

・授業力・・・年2回授業見学月間、研究授業の参加

一人一台端末の校内活用研修会

社会性の向上を図る取り組み及び人権教育の一層の充実

- ・人権 HR「デート DV」・・・日本ピアサポート学会の大学生からの出前授業
参加者30名 肯定率100%

・SSW の連携強化

○令和5年に向けて 教員の配属、授業の保障などの設計図の作成を今後行っていく。

○働き方改革について 会議回数・時間の見直し、校内研修・校内組織の簡素化、デジタル資料の活用
→時間外勤務80時間越え0人、休暇の取りやすい環境づくりの実現

協議

① 質問:単位の取得、卒業が難しい生徒に対してどのような取り組みを行っているか。

答え:生徒の特性を見極めながら密に連絡を取っている。生徒のことを信用して待つ場面もある。これといった特效薬はない。一人ひとりの状況を把握して関わっていくことがスタートである。

② 要望: I・II部を選ぶ生徒は人とうまく関われない生徒が多い。「友達を作らなくて済む」ということも言っていたが、桃谷で濃い時間を過ごせるように先生方にはこのまま親身になって生徒をお願いしたい。

③ 質問:卒業できない生徒のことが心配なのだがどう考えるか。

答え:卒業できない生徒に対しては、次の一步をどのように踏み出すのか担任、教員団と生徒と一緒に考えていくことを徹底していく。

④ 要望:評価指標に対してとても高い評価結果が出ている。きめ細かに子どもを見ることができているのではないか。転学を進めるのは新鮮。学びを社会人になって生かせるようにこのまま頑張ってもらいたい。

⑤ 質問:ヤングケアラーで登校できない生徒とSSWの連携はどのようなことを行っているのか。

答え:担任で出欠状況を見ていくと家庭に問題がある生徒も多い。例えば保護者はいるけれども一緒に住んでいない生徒に対してはこういう手立てがある、など具体的に対応していただいている。一人ひとりに応じたアドバイスをいただく。

〔定時制の課程 Ⅲ部〕

説明

○現状 本年度生徒数97名

○中期的目標 確かな学力の育成及び教員の授業力向上

- ・チームの再編①授業研究チーム・・・教員研修で目指す生徒像を共有し、授業実践につなげていく取り組み。
- ・授業見学シートの見直し。

②情報環境チーム・・・ChromeBookの環境の整備(各教室に配置)

- ・観点別学習状況評価の導入・・・1～4年次の全生徒に導入。生徒がどの部分ができているか明確になり、教員が指導しやすい環境になった。考査の平均点の内規をなくしABCの評価がしやすくなった。「主体的に学習に取り組む態度」をどのように評価していくかが今後の課題である。

カウンセリング及びガイダンス機能の充実

- ・生徒を支援する外部人材の「見える化」(教員の役割、外部人材の出勤日の共有)
- ・生徒の居場所づくり・・・かめカフェ、保健室など生徒自身が自分の居場所を選んで利用している。
- ・進路指導について・・・卒業年数に応じた進路HRの実践。保護者にも読んでもらえる「進路だより」の作成。

豊かな心の滋養

- ・部活動について・・・部活動参加人数62名(前年度39名)
バドミントン部が全国大会に出場、サッカー同好会の発足など活発に活動できている。

学校運営体制の確立と人材の育成

- ・会議時間1時間以内を目標。1時間を超えた会議は1回のみ。
- ・桃谷サロンについて・・・OJTの一環として首席が主催。月1回開催。

協議

① 質問: **桃谷サロン** 経験年数の少ない教員はどのような悩みを抱えているのか。

答え: コロナ禍において教員同士でコミュニケーションの場が減っているのが「桃谷サロン」誕生のきっかけ。初任の悩みとしてよくあるのが、授業での悩み。初任①生徒の気分の上下が激しく、対応に困ることがある。初任②生徒の学力の差が大きく授業づくりの面で苦勞した。生徒に受け入れられるのに時間がかかったが少しずつ受け入れられているように感じている。准校長: 他の学校と違い、授業が1発勝負である。1度きりでうまく授業をすることが難しい側面もある。

② 質問:入学してきた生徒の目的はどのようなものか。

答え:入学される目的は様々である。例えば、生涯学習コースでも進学を希望する生徒もいる。若い生徒では就職・進学が多い。登校が進まない生徒もいるが話を聞いて進路の実現に向けてがんばっている。

③ 要望:SSWやSCなどの相談先があることは財産。相談する力はとても大切であるので、よりよい事業になるように頑張してほしい。

④ 質問:観点別評価のABCの評価に教員ごとのずれはないのか。どのように基準を定めているのか。

答え:ABCの基準を先に生徒に説明するようにしている。基準を定める際には先にBの基準を定め、それ以上の水準になればAというように決めている。大切なことは先生の頑張らせたい方向と生徒の頑張る方向を一致させること。そのために基準を生徒に示すことを徹底している。

⑤ 質問:基準を設定した後の見とり方などはどのようなものがあるか。

答え:意欲を見とるところが難しい。各教科走りながら考えているところ。授業研究チームを中心に考えていきたい。出席するだけではもちろん評価しない。例えば、Google formでの課題をどれだけ粘り強く解いているかなどを意欲ととらえている。

⑥ 質問:主体的に学習に取り組む態度を評価することが難しい。テストだけではない授業の工夫にはどのようなものがあるか。

答え:ルーブリックを作成してからパフォーマンス課題をしてその記述の中で思考・判断・表現と主体性を同時に見とるような取り組みをしたり、振り返りシートで、設問を工夫してそれに答えるだけで、主体性を見られるようにしている。答えがないものなので、教員間での共有をしながら良い評価につなげていきたい。点数で評価するのではなく、ABCで評価しやすいようになっている。

[通信制の課程]

説明

○本校の概要

- ・大阪府で唯一の公立の通信制高校。
- ・本校で高卒資格を取るには必履修科目を含めて74単位とる必要がある。
- ・教科以外にも特別活動に出席する義務がある。
- ・本校の強み
全日制並みの大きな体育館、グラウンド、各教科の特別教室がある。(私学の通信制にはない強み)
通信制であるが学校生活を楽しめる。
(昨年度は体育祭や文化祭などの行事を実施し、予想を上回る生徒が参加)
- ・授業料について
私学の通信制…1単位とるのに約1万円 本校…1単位とるのに330円
(年間最大30単位修得可能なため、年間の授業料は最大で9900円)

○現状

- ・昼間部と日・夜間部の2部構成
- ・教職員数…常勤教職員53名 非常勤教員24名 合計77名
- ・本年度の在籍者数…1805名(昼間部…1339名 日・夜間部…466名)
管理職・養護教諭を除く40名の常勤教員で担任している。
- ・在籍生徒数の推移…平成27年度から減少傾向。(8年間で2割減少)

○進路実績…昨年度卒業生364名

進学83名 正規雇用76名(うち48名が学校斡旋就職)
入学前から仕事をしている生徒もいるため、進学・就職しない生徒も多い。

○中期的目標

- ・通信制で学ぶ生徒層の変化に対応する教育システムの確立。
- ・「確かな学力」「豊かな人間性」の育成とその実現に向けた教職員の資質向上。
- ・生徒支援と相談体制の強化・充実。
- ・卒業後の進路を見据えた進路指導の充実。
- ・情報発信・広報活動の充実及び防災教育の取組み。

○通信制の課題の解決に向けて

①分掌会議の活性化

- ・今年度から会議の時間を変更。
従来:水曜日に運営委員会、木曜日に職員会議(職員会議の1時間前から分掌会議を実施。)
今年度:職員会議のあとに分掌会議を実施。(分掌会議の時間を確保。)

②働き方改革

- ・業務改善アンケートの実施。

③ICT活用による連絡体制の整備とスクーリング力の向上

ICTの活用による連絡体制の整備

- ・Gmail を活用することで生徒への連絡がしやすくなった。
- ・ICT委員会が中心となり教員研修を実施。
(校内研修、教科ごとの「クラスルーム」の運営、クラスごとの「クラスルーム」の取り組みを進めている。)

スクーリング力の向上

- ・指導教諭を中心とした有志による「研究スクーリングプロジェクトチーム」(今年度で結成3年目)
- ・2年目以降、研究スクーリングへの参加率が下がったため、昨年度の終わりにおこなったアンケートをもとに参加率をあげていきたい。
- ・1人1台端末について、持ち帰らせることはできていないがスクーリングで活用していきたい。(活用法を検討するため、私学の先進校の見学をさせていただく。)

協議

① 要望: 昨年、近畿大学の通信制に入学された方がいる。その方は、大学から数十万円の請求書が来て困っていた。お金に関する事などについて、通信制の大学に行く人にも説明してほしい。

答え: 令和3年度卒業生も通信制の大学に進んでいる人がいる。進路部では、高校に比べて大学の学習は厳しいということについて指導している。

② 質問: 本校(中学校)ではオンラインで双方向の授業を行ったが、ある生徒から「普通の授業よりも先生と向き合っている気がした。」との感想を書いた生徒がいた。生徒の個々の状況によっては、非常に有効であると思う。ICT機器の整備が進んでいる中で、有効な活用をしていただけたらと思う。

答え: 私学の通信制は「オンラインの充実」、「離れていても授業を受けられること」を売りにしている。本校では生徒の年齢層や通信環境の違い等から、そこまで一気に進めていくのは難しい。私学の通信制でも、全部をネットで行っているわけではない。必要なスクーリング回数や特別活動もあるので何日かは登校が必要。昨年度本校では公開研究スクーリングを2回行い、他の府立高校の先生方に見ていただいた。通信制の仕組みを理解してもらう機会として本年度も実施する。

③ 要望: レポートに合格できたかを確認するため、郵送のシステムは残してもらいたい。

④ 質問:通信制の先生はスクーリングを行っているが、全日制や定時制に異動して授業するときには何が困るのか？

答え:スクーリングは「面接指導」とも言い、理解度に応じて個別に指導するのが本来の姿であるが、それができるのは小規模な通信制の学校。本校のように2000名近くの生徒が在籍していると、一人ずつ対応することが難しい。そのため、本校のスクーリングは講義形式になってしまう。全日制・定時制の授業と通信制のスクーリングの大きな違いは、継続性がないこと。毎回出てきてくれるわけではなく、前回のスクーリング内容の振り返りができない。しかも、自宅で学習してきたことを前提にしてスクーリングを行っている。さらに指名すると、次から来られなくなってしまう生徒がいるため、協働的な学習が難しい。通信制の先生が別の学校に異動するとその辺りの違いに戸惑うかもしれない。

⑤ 質問:夜間定時制Ⅲ部と通信制の違いについて、それぞれの特色をアピールして、教えていただけるとありがたい。

答え:私たちの情報発信の方法について貴重なご意見をいただいたので、よりよくアピールできるように頑張りたい。

⑥ 質問:編入・転入の募集人数を増やすことは設備の関係で無理なのか。昼間部の編入・転入で落ちる子は私立に行かざるを得ない状況になっていると思われるが、その子たちを受け入れることはできないのか？

答え:今回の再編整備計画の目的はまさにそこにある。現在昼間部の募集人員を増やしているところ。編転入学の枠もこれから増やしていくことになるはず。

[令和5年度教科書採択について]

- ・各教科の教員が慎重に検討し、校長・准校長が決定。
- ・第2回学校運営協議会で選定教科書の報告を行う。